

幼小接続を見通した「主体的・対話的で深い学び」としての遊び
 — 遊びの中の「学び」の発見プロジェクト —
 成果報告書

1. プロジェクトの背景・目的・概要

日本の幼児教育・保育と小学校教育において、保育所・幼稚園・認定こども園から小学校への円滑な接続の難しさ（小1プロブレム）が課題となっており、幼稚園教育要領では**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**（以下、**10の姿**）が記載され、小学校学習指導要領においても**10の姿**を踏まえた幼小接続について記載されるようになった。そこで本プロジェクトでは幼児を対象に「主体的・対話的で深い学び」としての遊びを通して、円滑な幼小接続のための**10の姿**の育ちを支えることを目的とする。

実践は「あそびっこだいさくせん」の活動の一部で実施した。「あそびっこだいさくせん」とは地域教育専攻の学校臨床・子育て支援研究室（担当指導教員：本田真大）による主に乳幼児を対象とした地域での実践活動である。本プロジェクトでは北海道教育大学附属函館幼稚園の預かり保育で月1回（13:35-15:50）行われる活動の一部で実践した。

なお、**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）**とは幼稚園教育要領に示されている、「健康な心と体」「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」「社会生活との関わり」「思考力の芽生え」「自然との関わり・生命尊重」「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」「言葉による伝えあい」「豊かな感性と表現」のことであり、主体的・対話的で深い学びとしての遊びを通して伸びていく資質・能力の方向性を示すものである。

2. 年間活動計画

日付	活動内容	日付	活動内容
4月 ～ 5月	主体的・対話的で深い学び 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 幼児との関わり方 幼稚園環境の観察と分析 預かり保育での幼児との交流	10月	保育指導案の書き方 幼児の園生活の観察・分析
6月 6/20	第3回実践計画立案・教材作成 第3回あそびっこだいさくせん 第3回実践評価 第4回実践計画立案	11月 11/28	第7回実践計画立案・教材作成 第7回あそびっこだいさくせん
7月 7/11	第4回実践計画立案・教材作成 第4回あそびっこだいさくせん 第4回実践評価 前期の実践評価	12月	第7回実践評価 後期の実践評価
8月 8/23	第5回実践計画立案・教材作成 第5回あそびっこだいさくせん 第5回実践評価	1月	活動全体の評価 報告書作成

3. 実践の経過と主な成果（活動時の様子から読み取った**10の姿**を併せて記載した）

（1）第3回あそびっこだいさくせん（6/20）

年少組2名，年中組0名，年長組7名の計9名が参加した。ねらいは「ロケットを作って飛ばすことを通して，自分なりの目的を持って試行錯誤する」，「異年齢の幼児や大学生との関わりを楽しむ」であった。活動内容は傘袋でのロケット製作である。赤くて丸いシールをお日様や隕石に見立てたり，星型の切り抜きとクレヨンで流れ星を表現したり，切り絵にお絵かきをしたりと，一人ひとりのイメージを乗せたロケットが出来た。ロケットを製作した後は飛ばして遊んだ。「赤いフラフープに通す！」など目標を定めて強さと方向を考えて飛ばす姿や，「○○君より遠くへ飛ばす！」など子ども同士で競い合って飛ばす姿が見られた（自立心）。また，「傘袋の長さを短くしたらどうなるのかな」，「どうすれば遠くへ飛ばせるかな」など，繰り返し遊ぶ中で疑問を持ち試行錯誤しながら活動する姿も見られた（思考力の芽生え）。フラフープを担当する大学生が一人だったため，同時に二人ずつしか投げることができなかったが，大学生が何も言わなくても幼児同士で「順番だよ」と声を掛けていた（道徳性・規範意識の芽生え）。

（2）第4回あそびっこだいさくせん（7/11）

年少組3名，年中組13名，年長組11名の計27名が参加した。ねらいは「様々な素材を使って自分なりのイメージを表現する」，「異年齢の幼児や大学生との関わりを楽しむ」であった。子ども達に「夏休みに何をしたい？」と聞き，「夏」のイメージを高めてから製作を始めた。うちわの扇部の形に切り取っておいた10色の色画用紙から1枚を選び，クレヨンで絵を描いたり，7種類の素材（モール・毛糸・ストロー等）から選んでセロハンテープで貼ったりしてオリジナルのうちわを作った。毛糸で海の中の海藻を作ったり，アイスの棒でクワガタのツノを表現したりと，たくさんの工夫が見られた（豊かな感性と表現）。最後にうちわの骨組みに画用紙を貼り付けた。「見てみて！」と，自分が作ったものを学生に一生懸命説明したり，先生や学生，子ども同士で全身を使って作ったうちわを扇いだりと楽しく遊ぶ姿が見られた。しばらくあおぐと更に作り直す子や，じっくりと細部まで作り込んでいる子もおり，楽しく頑張りながら作っていた（自立心）。

（3）第5回あそびっこだいさくせん（8/23）

年長組23名の宿泊保育の午前中に大学で活動した。ねらいは「同じグループの園児や保育者と相談しながら，自分の経験やメディアなどで見たものから自分たちのイメージを表現する」，「他の園児と相談し，よりよいものをつくりあげていくために主体的に発言・行動する」であった。子ども達は，大学生が用意した様々な形の6つの大型ダンボールのお店（装飾していない状態）をみながら，グループで「何屋さんをするか」「どの（ダンボールの）お店を選ぶか」を話しあって一つに決めた。すぐにみんなの意見がまとまったグループもあれば，決まらずジャンケンや多数決で決めるグループも見られた。四つのグループのお店は，「アイスクリーム屋さん」「レストラン」「アドマーニ」「食べ物屋さん」に決まった。決まった後は，自分たちのグループのお店づくりのために話し合いながら装飾品（飾り，看板，屋根，エプロン，レジなど）や商品を作り協力しながら楽しんでいた（協同性）。「こんなお店を作りたい」「こんな看板がほしい」など自分なりに完成した時の事をイメージして，どの素材が良いか試行錯誤しながら製作に取り組む姿が見られた（自立心，豊かな感性と表現）。

（4）第7回あそびっこだいさくせん（11/28）

年少組3名，年中組7名，年長組6名の計16名が参加した。ねらいは「一つの方法に捉われることなく，試行錯誤する力の基礎を養う」，「互いに自分の考えや発見を伝えあい，他者と共有しコミュニケーションを図る基礎を養う」であった。初めに身近な物（ファスナー，マジックテープ，新聞紙）を使った音をあてるクイズを行うと，「なんの音だろう？」と興味津々に考え，元気よく答えてくれた。次に，新聞紙を使って自由に音を鳴らした。初めは新聞を破る動作が多かったが，次第に叩く，新聞同士をする，引っ張る，あおぐ，ボール状に丸めて上に投げて落とすなど，試行錯誤し様々な扱い方で音を見つけた（自立心，思考力の芽生え）。また，友達と一緒に新聞紙を小さくちぎってお風呂に見立てたり，新聞紙で新聞紙を掃除したり，床を泳いで新聞紙を集めたりする中で（健康な心と体），新しい音に気がつく子どももいた（豊かな感性と表現）。最後に大学生が新聞紙で出す音だけを聞き，同じ音を新聞紙で表現するクイズを楽し

んだ。遊びに使った新聞紙はサンタクロースの袋の中に入れて袋いっぱいにするこで、片付けまでを楽しむことができる工夫をした。

4. 総括と反省・今後の課題

(1) 前期の活動の評価

前期の活動を通して幼児が試行錯誤する姿が多く見られ、幼児同士や大学生との異年齢交流も活発に行われていた。10の姿との関連では、「自立心」、「協同性」、「思考力の芽生え」、「豊かな感情と表現」、そして地域の大学生との交流という点で「社会生活との関わり」が多く見られた。一方で、幼児の様々な発想を実現できる環境構成には更に改善の余地があること、大学生が幼児に伝える際の言葉選びが的確でなかったために幼児が理解しにくい場面があったことが課題として明確にされた。

(2) 後期の活動の評価

前期の活動で取り入れなかった体を動かす遊びを行った結果、前期と同様に「自立心」、「協同性」、「豊かな感情と表現」、「道徳性・規範意識の芽生え」は後期でもよく見られ、さらに「健康な心と体」につながる姿も多く見られた。また、前期の反省を生かして幼児に伝える際の言葉選びを改善できた。

(3) プロジェクト全体の評価

遊びの中で子どもが主体的に取り組み、同年齢・異年齢の幼児や大学生と対話し、試行錯誤しながら気づきや考えを深めていける環境の構成や大学生の援助を計画し実施した。全体を通して「自然との関わり・生命尊重」や「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」はあまり見られなかった。今後は、3歳児から5歳児までいる異年齢の保育の場で数字に触れる場面や自然と関わる場面をどのように作っていいのか、研究していきたい。

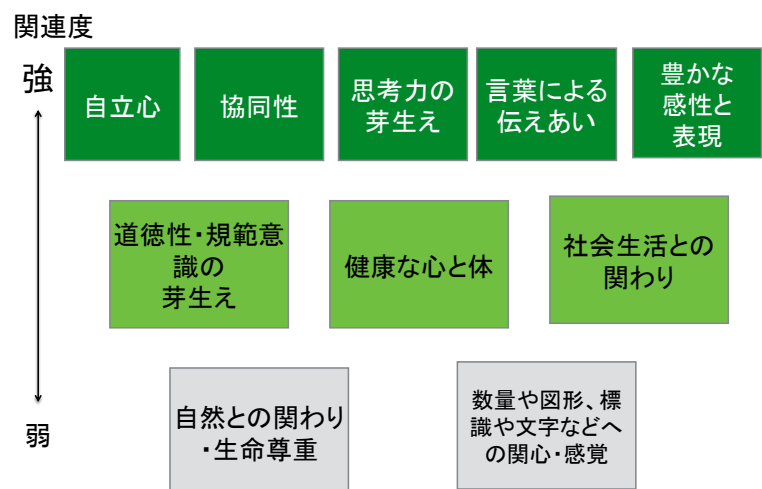


Figure 1 遊びの中の「学び」
(活動時の子どもの姿と10の姿の関連)

5. 地域からの評価

- ・附属幼稚園だけではなく他の幼稚園にも行けば良かったのではないかな。
- ・宿泊保育は年長児のみだったため、「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」をねらいとした活動をしやすかったのではないかな。
- ・片付けを遊びの一環にしているのが良かった。

6. メンバー一覧

7406 米本 七美 7408 加藤 菜々実 7417 内館 理子 7448 山口 杏佳
担当指導教員 本田 真大

謝辞

本プロジェクトにご理解とご協力を頂きました北海道教育附属函館幼稚園の先生方と保護者の皆様、あそびっこだいさくせんにご参加頂きました子どもたちにお礼申し上げます。